

2024 ASIAN ROWING CHAMPIONSHIPS

Report 8(10/13)

10月13日(日)

アジア選手権最終日。グループBの種目の決勝が行われました。日本からは決勝レースにLW2x、M1x、M8+が登場しました。

日本代表チームをはじめ各国の選手たちも力の限りのパフォーマンスを発揮し、アジアの頂点を決めるにふさわしい数々のレースが繰り広げられました。

LW2x決勝

スタートからイラン、ベトナム、タイが飛び出し、日本とカザフスタンが追いかける形でレースが始まった。イランはグイグイ前に出てそれをベトナムとタイが並ぶようにして追いかけて、そこに日本が食い下がる形でレースが進む。500m通過でメダル圏内からは水が空くがまだチャンスのある位置にいる。

レースが進むにつれイランが独走態勢を固め、タイとベトナムが競り合いながらペースが落ちない。日本も必死に食らいつくがじりじりと差が開きラストクォーターへ。

日本は何度もペースを上げようとするが、上位との差は縮まらずゴール。1位からイラン、タイ、ベトナム、日本、カザフスタンの順となった。



レースに向け出艇するLW2xクルー。
写真左からS成瀬選手(中部電力)、
B四方選手(陽進堂ホールディング)



氏のスパートをかけるLW2xクルー。写真左からS成瀬選手(中部電力)、B四方選手(陽進堂ホールディングス)

M1x決勝

逆風が強くなる中レースがスタート。スタートから日本がリードをする。その後中国、ウズベキスタンが抜け出し香港が続き、日本とイラク、カザフスタンがさらに続く展開になる。逆風が強くなる中、中々ポジションを上げることができず、さらに1本を長く押しているイラク並ぶようにして上位3クルーを追い続ける。日本も何とかポジションを上げようとするが、レースが進むにつれじりじりと上位との差が開き、並ぶようにしていたイラクにも少しずつ前に出られ始める。ラストクォーターもに入り懸命にスパートを入れるも順位を上げるには至らないと思われたが、最後にもう一段階ギアを上げイラクをかわし4位でゴール。中国、ウズベキスタン、香港、日本、イラク、カザフスタンの最終順位となった。



1700m地点でイラク(写真奥の艇先が確認できる)を必死に追い上げるM1x宮口選手(日本大学)。このあとの猛追でイラクをかわすことになる。



ラストで猛烈なスパートを見せるM1x宮口選手(日本大学)

M8+ 決勝

前に行われたM1xの決勝からさらに逆風が強くなる。スタートは日本が飛び出す、予備レースよりも数枚高いレートでウズベキスタンに直ぐに並ばれる。カザフスタンも日本に並ぶように上位に食らいついてくる。日本は懸命にウズベキスタンに食らいつき、差は中々開かず第二クォーターへ。ここでカザフスタンは離れはじめウズベキスタンと日本の勝負になる。

1000m付近で日本が一度差を詰めたかに見えたが、ウズベキスタンがギアを上げ日本を突き放しにかかり、差は逆キャンパスに広がり1300m付近で1艇身となる。

ラストクォーターの手前から日本はスパート体制に入り1500mを1艇身のまま入るが、ウズベキスタンも満を持してスパート。日本も懸命な追い上げを見せるが1位ウズベキスタンには届かず2位でゴール。数々のアクシデントに見舞われ難しい条件での大会となったが、価値ある銀メダル獲得となった。

1500m付近のM8+クルー。写真左からS佐々木心選手(NTT東日本)、7中田選手(明治安田)、6中溝選手(NTT東日本)、5福田選手(東レ滋賀)、4柘植選手(トヨタ紡織)、3是谷選手(トヨタ紡織)、2橋本選手(明治安田)、B林選手(NTT東日本)



強い逆風の中、1位ウズベキスタン(奥)を必死に追い上げるM8+クルー(手前)。写真左からC西村選手(明治安田)、S佐々木心選手(NTT東日本)、7中田選手(明治安田)、6中溝選手(NTT東日本)、5福田選手(東レ滋賀)、4柘植選手(トヨタ紡織)、3是谷選手(トヨタ紡織)、2橋本選手(明治安田)、B林選手(NTT東日本)

Medal Ceremonies

M8+

- | | |
|-------------------|--------------------|
| B 林 靖晴 選手(NTT東日本) | 2 橋本 太一 選手(明治安田) |
| 3 是谷 有輝 選手(トヨタ紡織) | 4 柘植 実 選手(トヨタ紡織) |
| 5 福田 将 選手(東レ滋賀) | 6 中溝 朝善 選手(NTT東日本) |
| 7 中田 悠介 選手(明治安田) | S 佐々木 心 選手(NTT東日本) |
| C 西村 大河 選手(明治安田) | |



10月13日(日)のレースをもって2024年アジアローイング選手権日本代表チームのレースは全て終了いたしました。

ご声援いただいた皆様、本当にありがとうございました。

結果はM8+の銀メダル獲得をはじめ、いくつかのアクシデントに見舞われつつも、それを皆で乗り越えながら全種目で決勝レースを経験できたことは、今後この国のレベルを上げていくうえで中核を担うであろう選手たちにとってのがかけがえのない経験となったことが宝物だと思っております。今後は、その経験を一人一人がしっかりと自身の成長とこの国のレベルアップのために活かしていってくれることと信じております。

また、日本からも審判員や大会役員として参加していただいた方々や、地元ウズベキスタンの大会運営に携わった方々に大変お世話になりました。このような方々のお陰で、大会が開催され力を発揮する場があることを、改めて有難く感じました。

最後に今回の遠征にご協力いただきました全ての皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

「ご声援ありがとうございました」

～2024年アジアローイング選手権日本代表選手団一同～



後列左より、西川 正芳 コーチ(NTT東日本)、M8+中溝 朝善 選手(NTT東日本)、M8+是谷 有輝 選手(トヨタ紡織)、M8+福田 将 選手(東レ滋賀)、M8+柘植 実 選手(トヨタ紡織)、W1x飯島 佐和子 選手(明治安田)、LW2x成瀬 歩美 選手(中部電力)、LW2x四方 美咲 選手(陽進堂ホールディングス)、M1x宮口 大誠 選手(日本大学)、中上 仰 チームリーダー

前列左より、川浦 慎平 コーチ(中部電力)、M8+西村 大河 選手(明治安田)、M8+林 靖晴 選手(NTT東日本)、M8+橋本 太一 選手(明治安田)、M8+中田 悠介 選手(明治安田)、M8+佐々木 心 選手(NTT東日本)、小畑 篤史 ヘッドコーチ(トヨタ紡織)